

# 奄美大島における気象データ解析をもとにした防災戦略と

## シェルターの必要性に関する研究

22011258 橋口月

本研究では、奄美大島の気象データを分析し、過去の災害傾向を明らかにし、災害予測モデルを構築することを目的としている。特に、降水量のパターンに着目し、土砂災害や豪雨のリスク評価を行う。これを基に、奄美大島の防災対策を強化し、安全性を高めるためのシェルター配置や設計の提案を行う。

先行研究では、奄美大島の地理と気象条件を調査し、防災対策の重要性を確認。さらに、過去の防災取り組みを文献から調査した。本研究の分析手法としては、気象庁のデータを取得し、降水量や気温の変化を視覚化。統計手法を用いて、降水量と災害発生との関連性を調査し、災害発生時の降水量閾値を特定した。

この分析を基に、シェルターを中心とした防災対策の提案を行い、避難計画の見直しやリスク軽減策を検討。研究結果と提案の有用性をまとめ、今後の研究方向性についても触れる。奄美大島の安全性向上のための気象データ分析と災害予測は、適切な防災対策の策定に寄与する。

奄美大島は、美しい自然環境と豊かな文化が融合する場所であり、その風光明媚な景観は多くの人々に魅力を提供している。過去の記録から、台風、豪雨、津波、地震、など様々な災害が奄美大島を襲った。本研究は、奄美大島における防災対策の重要焦点を当て、気象データ分析をし、最終的にシェルターの必要性を探求するものである。地質条件に合わせて検討されるべきであり、地域社会の安全と福祉を守るための重要な取り組みであると考えられる。2023年6月22日の日本経済新聞の記事を参考に、過去の災害時の降水量を調査し、気象データから得られた洞察をもとに、奄美における大島シェルターの必要性、奄美大島の住民や地域社会の安全を向上させる一助となることを目指す。1.奄美大島の地理的特性と災害の歴史の背景について概説。2.ではデータ気象分析の方法について論じる。3.では、過去の降水量データから得られた結果と洞察を報告し、最終的にシェルターの必要性を提案。最終章では結論と今後の研究への展望を示す。奄美大島の美しい自然を守り、住民の安全を守るために、防災対策は欠かせない課題であり、本研究がその一助となることを期待している。